

## シアトルのブルドット社、幅広い日本のユーザー層に人気

### 新ウェブサイト「ソーシャル・ディスカバリー (R)」、熱心な日本人ユーザーに対応

ビジネス関連編集者 / インターネット関連記者各位

マルチメディア資料はこちら : <http://www.businesswire.com/cgi-bin/mmg.cgi?eid=5206958>

ワシントン州 シアトル発 -- ( ビジネスワイヤ ) -- 2006 年 8 月 xx 日 -- シアトルに拠点を置くブルドット社 ( Blue Dot, Inc. ) は、今年 6 月下旬に立ち上げたウェブサイト「ソーシャル・ディスカバリー ( R )」が、日本人ユーザーの間で驚異的なスピードで知名度を高め、活発に利用されていると発表しました。7 月中に最も多く同サイトを利用したのは日本人ユーザーで、400 以上の「ドット ( Dot )」( Dot ) と呼ばれるパーソナライズされたウェブリンクが日本のユーザーによって創設されていました。また、ブルドットの上位 10 ユーザーの内、日本人がなんと 5 人までを占めていました。

マイクロソフト ( R ) やアマゾン・コム ( R ) に在籍経験のある開発者たちによって立ち上げられたブルドット ( [www.bluedot.us](http://www.bluedot.us) ) は、インターネットを利用したコミュニケーションやデータ共有のあり方に変革をもたらしています。同サイトは、今までのソーシャル・ネットワーキングをさらに進化させたもので、ユーザーは面白いウェブ・コンテンツを簡単に見つけることができるほか、それを保存したり友人や家族と共有したりできるようになっています。これまで、日本人ユーザーが最も多く「ドット」( ブックマーク ) した上位 5 サイトは以下のとおりです。

- 1 位 [cookpad.com](http://cookpad.com)
- 2 位 [gigazine.net](http://gigazine.net)
- 3 位 [itmedia.co.jp](http://itmedia.co.jp)
- 4 位 [japan.cnet.com](http://japan.cnet.com)
- 5 位 [sankei.co.jp](http://sankei.co.jp)

これらのサイトは、ブルドット・システム全体の上位 25 サイトにもランクインしています。

ブルドットが特に日本人ユーザーに人気を博している理由はいくつか考えられます。ブルドットは、開発当初から米国以外のユーザーにも使いやすいことを念頭に設計されており、文章は日本語を含めどんな文字セットでも入力可能です。さらにブルドットでは、情報ソースとなるウェブページのサムネイル画像を使ってブックマークを見やすくするなど、他のブックマーキング・サイトよりもグラフィックを多用した設計になっています。また、日本におけるブログ人気は米国を上回る勢いですが、ブルドットでは、ユーザーの最新エントリーがユーザープロフィール・ページに表示される仕組みになっており、ブログに良く似た構成になっていることも人気の一因でしょう。

ブルドット・ユーザーは国籍を問わず、世界のどこにいてもウェブ上で見つけたニュース、イベント、動画、音楽、レストラン、他のウェブサイトなど、どんなものについても「ドット」( ブックマーク ) が創れます。ブルドットの特許出願中の技術により、ユーザーは、コメントの追加、情報ソースのウェブページからの画像選択、複数「ドット」カテゴリーによる分類、ランク付けなどを、ドットを創りながら行えるようになります。いったん保存されると、全てのドットは検索可能なオンライン・コレクションとして整理されたかたちで表示されます。また、ブルドットは、ブログやソーシャルネットワーキング・サイトに統合可能なので、最小限の作業でユーザーのパーソナルページを最新の状態に保つことも可能です。

マイクロソフトの開発者として 19 年間にわたりエクセルやアウトLOOKなどのアプリケーション・ソフトの開発に携わった経歴を持ち、投資家であると同時に「ブルドットのヘッド・チアリーダー」を自称するマイク・コス ( Mike Koss ) 氏は次のように述べています。「当社ウェブサイトには日本人ユーザーの方たちが訪れ始めた時は、本当に興奮したものです。ブルドットでは、米国のユーザーが仕事を終えて家路につくころ、日本のユーザーが朝を迎えて目を覚ますという状態で、まさに『太陽の沈まないウェブサイト』となっています。毎日夕方になると『エブリワンス・ドッツ・ページ』で主に使われる言語が英語から日本語に切り替わることを見ても、この現象は一目瞭然ですね。」

ブルードットの通信責任者で「ドット・コネクター」の異名を持つカビール・シャハニ (Kabir Shahani) 氏は、これに同意して次のように述べています。「日本のように、米国以外の国でもブルードットが人気になっていることを知り、大きな励みになっています。私自身、何度か日本を訪れたことがあり、日本人向けにサイトを国際化することには、これまでも大賛成だったのですが、これほど多くの日本人ユーザーの皆様に利用されているわけですから、今後数ヶ月はサイトの国際対応に一層注力していく所存です。」

## ブルードットについて

2004年10月にモヒット・スリヴァスタヴァ (Mohit Srivastava) によって共同設立されたブルードットは、シアトルに本社を置く企業で、ユーザーが時と場所を選ばずに友達とつながっていただけるよう支援することを使命としています。「ソーシャル・ディスカバリー (R)」と名づけられた新しいかたちのコミュニケーションにより、ブルードットの無料ウェブサイトのユーザーは、面白いウェブ・コンテンツを見つけて保存し、友人や家族と共有することができます。ブルードットの技術は、様々なトピックの情報を日常生活のなかで簡単に友人や家族に送ったり共有したりすることを可能にします。同社は、マイクロソフト (R) やアマゾン・コム (R) など、シアトルをベースとする技術系企業に在籍していた経験豊かな開発者集団によって運営されています。同社詳細については、サイト [www.bluedot.us](http://www.bluedot.us) をご覧ください。

マルチメディア資料はこちら : <http://www.businesswire.com/cgi-bin/mmg.cgi?eid=5206958>

CONTACT: Richmond Public Relations  
Natalie Dent or Erin Petrie  
206-682-6979 or 206-605-1802 (cell)  
natalied@richmondpr.com or erinp@richmondpr.com